



最新の内視鏡導入

検査・治療「道内最高レベル」

製鉄室蘭病院

室蘭市知利別町の製鉄記念室蘭病院（松木高雪院長）は、従来のハイビジョンを大幅に上回る高精細画像の最新鋭・消化器内視鏡器機を導入した。初期のがん発見などに有効で、前田征洋副院長（消化器・血液腫瘍内科）は「道内最高レベルの

内視鏡検査・治療を引き続き患者に提供していく」と意気込んでい同病院内視鏡センターが導入したのはオリンパス社製の最高グレードの内視鏡で、道内では2番目の導入。高精細画像が特徴。観察液晶モニターも19インチから26インチに大型化した。同病院ではこれまで

内視鏡、カプセル内視鏡、小腸内視鏡などの先端システムを先駆けて導入している。内視鏡システムも2007年に最高水準の器機をいち早く導入。これまでに年間5千〜5500件の検査実績がある。今回はメーカーによるフルモデルチェンジに合わせ更新。内視鏡システム3台、スコープ14本を導入した。

26日の検査から使用している前田副院長は「今後、大学病院はじめ導入が進む最新型。口から入れるカメラはもちろん、従来画質が劣っていた鼻から入れる細いカメラも極めて画質が良い」と手応え。粘膜表面や微細な血管の近接観察などにも威力を発揮し、胃や食道の初期のがんが発見しやすくなると期待している。

製鉄記念病院が導入した最新の内視鏡器機と前田副院長

も、がんの早期発見や診断に有用な蛍光観察

大腸内視鏡も性能が

向上。観察視野が140度から170度へ拡大し、検査時間も短縮できる」（前田副院長）と最新器機による検査と治療のメリットを説明している。

（佐藤重理）